福岡市埋蔵文化財調査報告書第1134集

有田・小田部 49

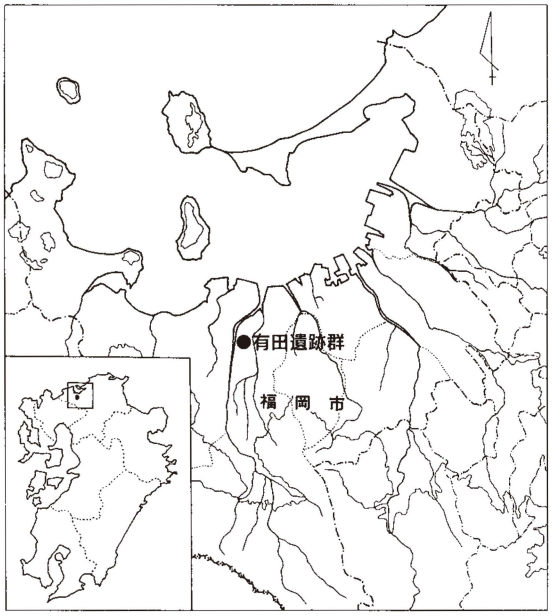
― 有田遺跡群第234次調査報告書 ―

2012

福岡市教育委員会

有田・小田部 49

— 有田遺跡群第234次調査報告書 —



調査番号　0927
調査略号　ART-234

2012

福岡市教育委員会

序

福岡市は、原始より大陸文化流入の門戸として栄え、市内に多くの埋蔵文化財が残っています。このため、先人たちの足跡である埋蔵文化財の保護に努めるとともに、まちづくりの目標のひとつに「海と歴史を抱いた文化の都市」を掲げ、実現を目指しております。

今回報告いたしますのは、福岡市西部を占める早良平野に立地する有田遺跡の発掘調査成果です。

今後、本書および調査資料が学術研究だけにとどまらず、市民各位の埋蔵文化財に対する認識を深めるために寄与することを深く願うものです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり全面的にご協力いただいた関係者をはじめ、御支援と御指導をいただいた関係各位に対し深く感謝いたします。

平成24年3月16日

福岡市教育委員会
教育長　酒井龍彦

例　　言

1．本書は、福岡市教育委員会が福岡市早良区有田１丁目40地内の有田西公園再整備予定地内において、2009年度（平成21年度）に実施した有田遺跡群第234次発掘調査報告書である。
2．本書における調査の細目は次のとおりである。
3．遺構実測図に付した座標値は平面直角座標形第Ⅱ座標系による座標値である。方位は磁北で、真北に対して６°18′西偏する。
4．本書では遺構ごとに一連の遺構番号を付け、番号の前にＳＡ（柵・塀）、ＳＤ（溝・河川）、ＳＫ（土壙）、ＳＸ（その他）などの遺構の性格を示す分類記号を付した。
5．本書に係る遺構・遺物の実測および遺構・遺物の写真撮影は瀧本正志が担当した。
6．本書の執筆・編集は瀧本正志が担当した。
7．本書の発掘調査に係る遺物・記録類のすべては、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵されている。

調査次数	調査番号	遺跡略号	調　査　地	面　積	調　査　期　間
234次	０９２７	ＡＲＴ－234	早良区有田１丁目40	745.5㎡	2009.10.13～2009.11.18

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
１．発掘調査に至る経緯 …… 1
２．調査の組織 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 2
１．遺跡の位置と立地 …… 2
２．遺跡の歴史的環境 …… 2

第Ⅲ章　調査の記録 …… 5
１．試掘調査の概要 …… 5
２．発掘調査の概要 …… 6
３．遺　構 …… 8
４．遺　物 …… 10

第Ⅳ章　小　結 …… 11

挿 図 目 次

Fig. 1 調査地位置図（1/200,000） …… 1
Fig. 2 調査地周辺遺跡分布図（1/25,000）…… 3
Fig. 3 遺跡調査次数位置図（1/7,500）…… 4
Fig. 4 試掘調査位置図（1/1,500）…… 5
Fig. 5 遺構配置図（1/250）…… 7
Fig. 6 土壙SK01実測図（1/40）…… 9
Fig. 7 土壙SK02実測図（1/40）…… 9
Fig. 8 柱穴SP01実測図（1/40）…… 9
Fig. 9 出土遺物実測図（1/3） ……10
Fig.10 周辺調査遺構図（1/1,500）……11

図 版 目 次

PL. 1 調査地周辺航空写真（1939年 昭和14年）
PL. 2 調査地周辺航空写真（1947年 昭和22年）
PL. 3 調査地周辺航空写真（1956年 昭和31年）
PL. 4 調査地周辺航空写真（1960年 昭和35年）
PL. 5 調査地周辺航空写真（1964年 昭和39年）
PL. 6 調査地周辺航空写真（1972年 昭和47年）
PL. 7 調査地周辺航空写真（1981年 昭和56年）
PL. 8 調査地周辺航空写真（1987年 昭和62年）
PL. 9 調査地周辺航空写真（2001年 平成13年）
PL. 10 調査地周辺航空写真（2004年 平成16年）
PL. 11 調査地周辺航空写真（2007年 平成19年）
PL. 12 （1）南西区全景（東から）
（2）溝SD01（西から）
PL. 13 （1）南央区全景（西から）
（2）溝SD02，土壙SK01･02（東から）
（3）溝SD02（西から）
（4）土壙SK01（西から）
（5）土壙SK02（西から）
PL. 14 （1）東央区，南東区全景（北から）
（2）北東区全景（南から）
PL. 15 （1）北央区全景（東から）
（2）北央区柱穴SP01（北から）
（3）北央区柱穴SP01断面（北から）
PL. 16 （1）北西区遠景（南東から）
（2）北西区全景（東から）
PL. 17 （1）南西区出土墓標
（2）白磁碗（092700001）
（3）施釉陶器碗（092700002）
（4）施釉陶器碗（092700003）
（5）黒曜石剥片
PL. 18 （1）調査終了状況全景（南東から）
（2）公園再整備後風景（北から）
（3）公園内遺跡説明板
PL. 19 （1）公園南東部（公園再整備前）
（2）公園南東部（公園再整備後）
（3）公園北東部(発掘調査前)
（4）公園北東部(公園再整備後)
（5）公園中央部(発掘調査前)
（6）公園中央部(公園再整備後)

表 目 次

第１表 有田遺跡群発掘調査報告書一覧……12

第Ⅰ章　はじめに

１．発掘調査に至る経緯

福岡市早良区有田一丁目40に所在する有田西公園再整備工事に先立つ埋蔵文化財審査願い（審査番号20-1-93）が、平成20年（2008年）10月6日付、住公建第144号で土地所有者の福岡市（住宅都市局公園緑地部公園建設課）から福岡市教育委員会（埋蔵文化財第１課）へ提出された。書類審査の結果、当該地が埋蔵文化財包蔵地の「有田遺跡群」内に位置するとともに当該地の隣接地における発掘調査（第12次・31次・39次・57次・95次・141次・158次・146次）において古墳時代から奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物、柵列、炉などが発見されていることから、当該地における公園再整備工事に先立って試掘調査が必要である旨を平成20年10月28日付、教埋１第2514号で回答した。

その後、試掘調査（試掘番号21-39）を平成21年（2009年）5月20日、申請当該地の有田西公園内において実施。その結果、遺物の出土は認められなかったものの、地表下5㎝～ 10㎝で溝と柱穴が散見された。埋蔵文化財第１課は、この試掘調査成果や隣接地における文化財調査成果などから当該地においては弥生時代～古墳時代と中世の遺跡の存在が推定され、計画される開発事業が実施された場合には遺跡に影響が及ぶものと判断した。試掘調査結果を依頼者に回答するとともに文化財の取り扱いについて協議を行った結果、建設工事に先立って埋蔵文化財発掘調査を実施することとした。

発掘調査は平成21年度、資料整理は平成23年度に実施した。

２．調査の組織

調査主体　　福岡市教育委員会

	平成21年度（調査）	平成23年度（整理）
教育長	山田裕嗣	酒井龍彦
文化財部長	宮川秋雄	藤尾　浩
埋蔵文化財第２課長	田中壽夫	田中壽夫
調査・整理担当	瀧本正志	瀧本正志
庶務・経理担当	古賀とも子	古賀とも子

Fig.1　調査地位置図（1/200,000）　【国土地理院発行20万の１地勢図（福岡）を使用】

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

１．遺跡の位置と立地

本調査地の位置する有田遺跡群は、福岡市西部の早良平野を南北に貫流する室見川下流の東岸に位置する洪積台地上に広がる遺跡群の呼称である。この須久火山灰による洪積台地は、標高15m前後を測る独立中位段丘で、浸食により八つ手状にいくつにも分岐した地形を呈し、南北約1.7㎞、東西0.7㎞を測る。浸食を受けた台地の地形は、東西両方向からの大規模な谷の浸食により中央部が極端に狭くなり、大きく北側と南側の二地区に分断される。北側地区は北東－南西方向に軸を持つ丘陵から北西方向へ幾筋もの小段丘が派生している。南側地区は「Y」字形を呈し、交点付近を中心に広がりを見せる。

本調査(第234次)地は、南地区の西縁部、北西方向に延びる丘陵の南側斜面に位置する。そのため、大規模な地形改変が行われた現在でも、調査地を含む周辺の地形は南西方向へ傾斜している。

２．遺跡の歴史的環境

有田遺跡群の埋蔵文化財調査は、1967年から九州大学により同地域における区画整理事業に先だち開始され、以降は主に専用住宅建設を中心とした開発に対応した緊急調査を福岡市教育委員会が実施してきた。ちなみに、2011年末現在で241次の調査回数を数える。

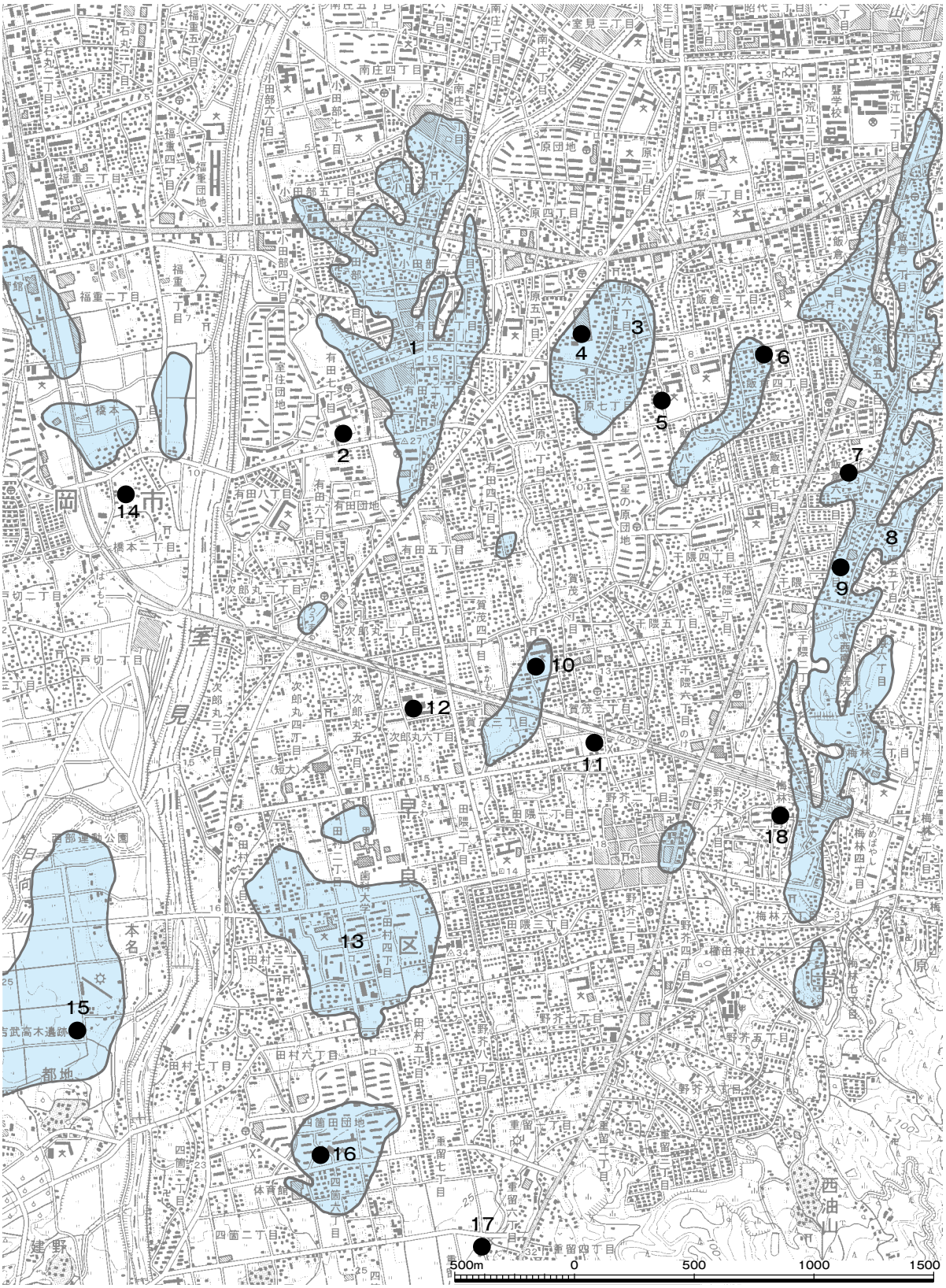
有田遺跡群における過去の調査では旧石器時代から中世にいたる幅広い時期の遺構や遺物が発見されており、以下に概観してみる。

旧石器時代は、後世の大規模な削平による影響を受けた結果、遺物はローム層からナイフ型石器・ポイント・台形石器が出土しているがまとまりを欠き、遺構についても明確なものは確認されていないことなどから、当時の状況を明らかにするには至っていない。しかしながら、本遺跡の立地する台地上における人々の生活は明らかであることから、今後の調査の進展を待ちたい。

縄文時代の状況についてもその全容は不明であるが、台地南側地区の西方に延びる支脈上で行われた第5次・116次調査において中期～後期の貯蔵穴群が発見されている。また、遺跡群の南西に位置する有田七反田前遺跡、現在の有住小学校建設に伴う発掘調査では流路遺構から凸帯文土器などが出土し、縄文時代終末期の当地域における初期稲作農耕を知ることができる。

弥生時代における台地の様相は、前期～中期において活発な活動状況を反映する遺構や遺物が台地全体において検出されているが、後期には活動規模は極めて縮小化している。前期の代表的な遺構として、台地南半部の中央に位置する第2次・45次・54次・77次調査では長軸径300m、短軸径200mを測る楕円形の環濠遺構の存在が指摘されている。また、前期後半～中期を中心とした甕棺墓が数多く検出される状況は集落の活性度の高さを反映するものであり、これら甕棺墓における銅矛や銅鏡などの副葬や銅製品鋳型の出土は周辺地域における集落の格の高さを物語るものであろう。

古墳時代には台地北半部区を中心として大型の円墳が築造され、当地域における有力首長層が確立された姿を見ることとなる。さらに、これらは律令期における早良地域の中心地としての政治・経済的基盤の確立への序奏であった。それらを示す具体的遺構としては、柵や堀で矩形に区画された地内に掘立柱建物が配された大規模な居館や倉庫群の存在が上げられ、第189次調査で確認された掘立柱建物群の早良郡衙へと繋がるものである。



1. 有田遺跡群　2. 有田七田前遺跡　3. 原遺跡群　4. 原談儀遺跡　5. 原深町遺跡
6. 飯倉原遺跡　7. 飯倉唐木遺跡　8. 飯倉遺跡群　9. 干隈古墳　10. 免遺跡群
11. 野芥大藪遺跡　12. 次郎丸高石遺跡　13. 田村遺跡群　14. 橋本榎田遺跡　15. 吉武遺跡群
16. 四箇遺跡群　17. 拝塚古墳　18. 梅林古墳

Fig.2　調査地周辺遺跡分布図（1/25,000）

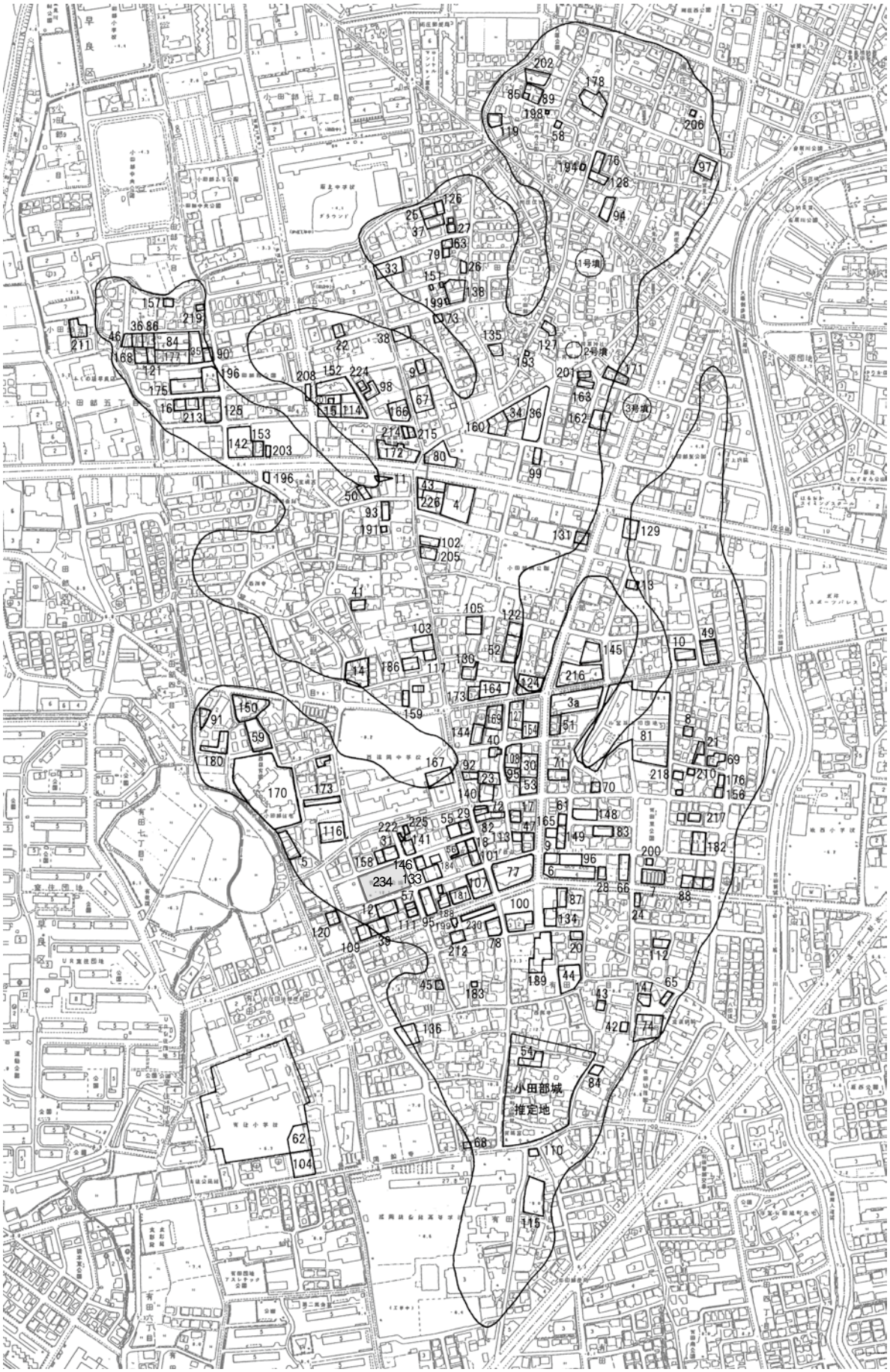


Fig.3　遺跡調査次数位置図（1/7,500）

第Ⅲ章　調査の記録

１．試掘調査の概要

試掘調査は、昭和40年（1965年）の土地区画整理事業後に整備された東西約96ｍ・南北約36ｍを測る長方形の用地を東西2段に区画した有田西公園において実施した。公園で一段高い公園東地区には２本（Tr.1･2）、西地区には2本（Tr.3･4）の東西トレンチを設定して行った。公園東地区では、地表直下の5～10㎝で明黄褐色～黄白色ロームとなり、埋土が黒色土の小穴と小規模で東西方向に向きを示す溝状遺構を検出した。公園西地区では、地表下5㎝の面で近世墓、同40㎝の黄白色～黄褐色砂質土面で埋土が黒色土の小穴および溝と推定される遺構の存在を確認した。

遺構は、密度が極めて希薄で、検出面標高も周囲の既調査地における遺構面と比べて50～60㎝ほど低く、土地区画造成工事および公園建設工事の大規模な地下げによる影響を受けたことを知ることとなった。遺構が散見されるとともに遺物がほとんど出土していない状況ではあったが、調査地に北接する第31次・141次・158次調査と南接する第12次調査の成果等から、遺構は存在していると判断するに至った。

発掘調査対象の範囲は、遺構面が深い公園西地区は除外し、遺構面が地表直下に位置する公園東地区においても工事の掘削による影響を受ける園路・出入口・芝張り部を中心とした。

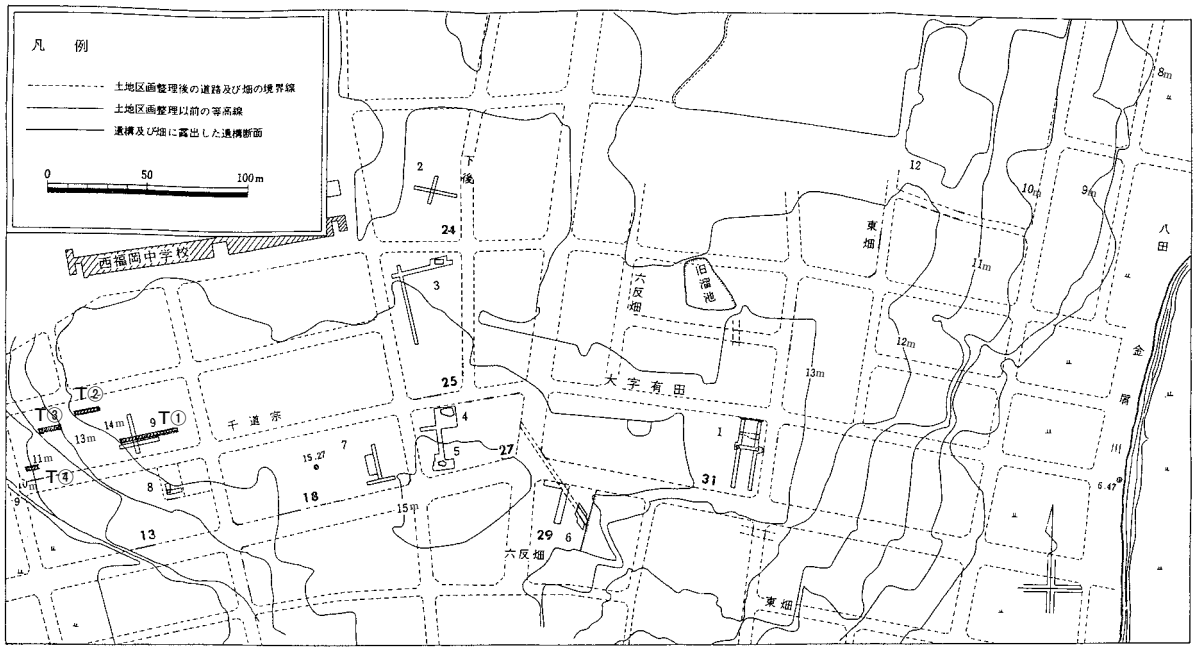


Fig.4　試掘調査位置図（1/1,500）　※元図は有田遺跡第2次調査

２．発掘調査の概要

調査では調査地を位置関係から北央区、北西区、南西区、南央区、南東区、東央区、北東区で区分呼称し、本報告でも同様にするものである。ただし、明確な区分線は設定していない。

発掘調査は、平成21年10月13日から重機で表土を除去した後、人力による遺構検出と各遺構の掘り下げを行った。その結果、遺構は試掘調査報告の推定どおりに表土直下のローム層上面で柱穴、溝、土壙、小穴を検出したが、極めて残存状況は悪く、遺物もコンテナ浅箱に1箱という状況であった。

南西区においては、１条の東西溝を検出した。全体としては、近世末～近代の墓や公園建設時の排水溝および遊具設置の土壙で占められ、攪乱の度合いが大きい。同区には、南西方向に傾斜する旧地形の緩斜面が認められ、江戸時代末期～明治時代末の墓壙約60基が狭い範囲に密集して確認された。さらに、旧地表面を盛土して造成した公園の整地土内には、年号を刻した石標および墓の石材などが多く含まれていた。これらから、当該地が土地区画整理事業に伴って改葬されるまでは、地域の人々の埋葬地として使用されていたことが判明した（註1）。調査では、大半の墓壙が未改葬の状況を呈していること、公園再整備における掘削工事での影響を受けることが無いと判断されることから、調査に必要な記録を得た後、現地をそのまま埋め戻すことにした。

南央区では1条の溝と2基の土壙を検出した。同区の大半は、公園建設時の排水溝建設に伴う土坑および遊具設置の土壙で占められ、攪乱の度合いが大きい。

南東区は公園建設時の排水溝建設に伴う土坑の攪乱だけであった。

東央区も同様に排水溝建設に伴う土坑および遊具設置の土壙で占められ、攪乱の度合いが大きい。

北東区は158次調査地で検出された柵SA01の延長線上に位置するが確認できなかった。大半が公園建設時の排水溝建設に伴う土坑および遊具設置の土壙で占められ、攪乱の度合いが大きい。

北央区は緑地帯で、他の調査地に比べて僅かに地表面が海鼠形状に高い。柱痕跡を持つ柱穴を確認した。北接する第158次調査で検出した遺構の広がりと考えられる。それ以外は、公園建設における排水溝の建設に伴う土坑の攪乱だけであった。

北西区は3個の小穴を確認した。柱列などから建物確認の拡張調査を行ったが未検出である。他の区と同様に公園建設時の排水溝建設に伴う土坑のほかに、ユンボの爪痕も生々しい土壙を確認した。

発掘調査は、11月18日に完了した。

（註）

1）調査地に近接する、浄土真宗本願寺派西慶寺住職のご教示による。

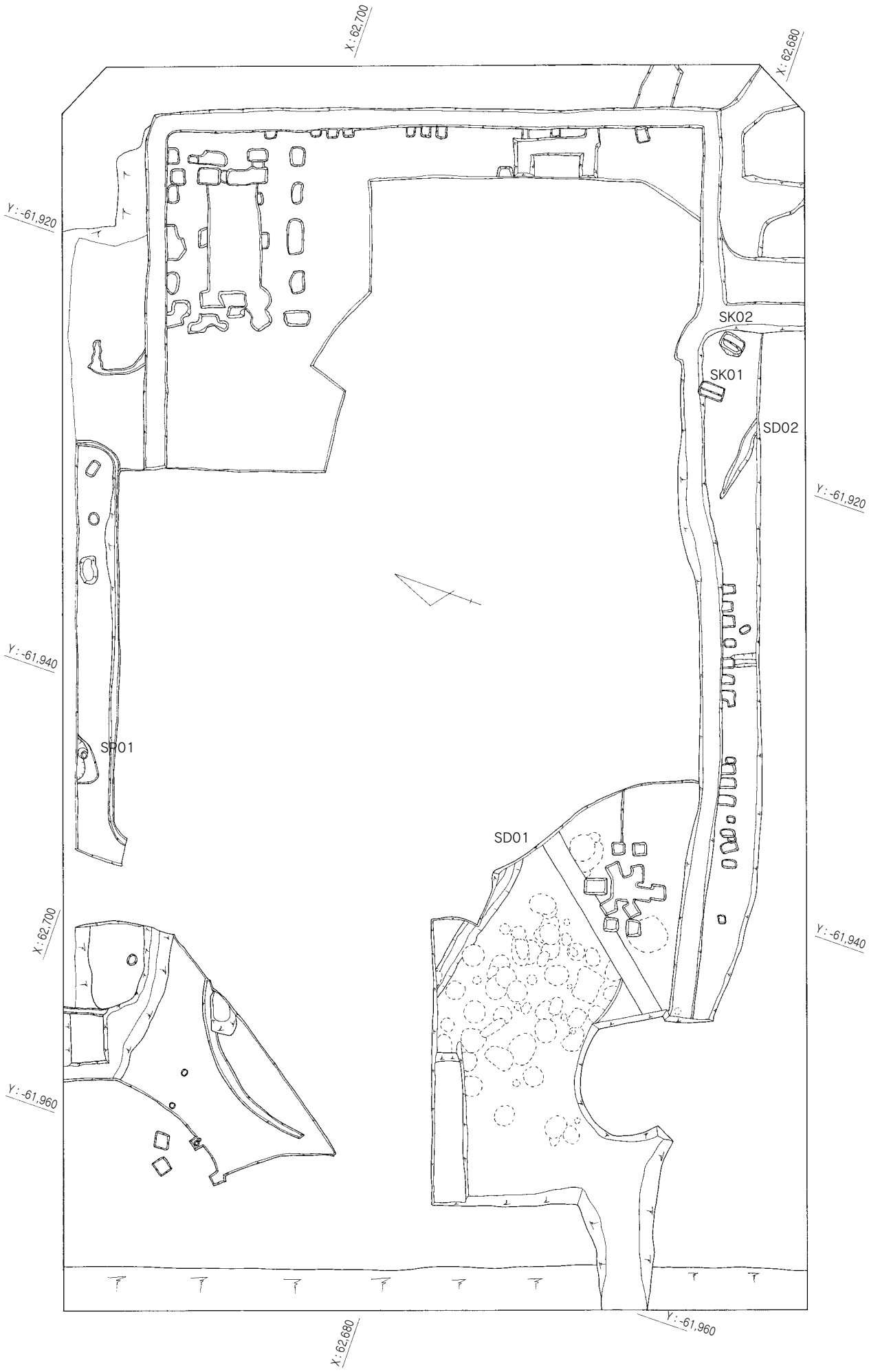


Fig.5　遺構配置図（1/250）

３．遺 構

（1）溝（ＳＤ）

溝は2条を検出した。2条の溝の間は未検出であるが、規模や方向などから同じ溝である可能性は高い。さらに第95次調査で検出した2号溝の延長部の可能性もある。

SD01（Fig.5　PL.12）

調査地南西区で検出した東西溝で、西に下る斜面に沿って設けられている。幅0.7 ～ 1.0m、深さ0.2mを測り、東西双方向の未検出地に延びる。検出した長さは8mである。溝は、底面が狭く平坦で、壁面は内反しながら立ち上がる。近世墓に壊されている。埋土は茶褐色土である。遺物は出土していない。南央区で検出した溝SD02と連続するものと思われる。

SD02（Fig.5　PL.13）

調査地南西区で検出した東西溝で、旧地形では平坦部に位置する。幅0.6m、深さ0.06mを測り、検出した長さは4.3mである。溝は、西端部が緩やかに立ち上がって消滅し、東部は未調査地へ延びる。溝の底面は狭く平坦で、壁面は内反しながら緩やかに立ち上がる。埋土は茶褐色土である。遺物は出土していない。南央区で検出した溝SD02と連続するものと思われる。さらには、方向性と位置から第95次調査で検出した2号溝と連結する可能性がある。

（2）土　壙（ＳＫ）

土壙は2基を検出した。2条の溝の間は未検出であるが、規模や方向などから同じ溝である可能性は高い。さらに第95次調査で検出した2号溝の延長部の可能性もある。

SK01（Fig.5,6　PL.13）

南央区の東、溝SD02の北２ｍに位置する。隅丸長方形の平面形を呈し、壙底も同様である。長軸1.25m、短軸0.68m、深さ0.63mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は地山の黄橙色粘質土が混じる茶褐色粘質土である。遺物は出土していない。

SK02（Fig.5,7　PL.13）

南央区の東、土壙SK01の東2mに位置する。隅丸長方形の平面形を呈し、壙底も同様である。長軸1.20m、短軸0.75m、深さ0.46mを測る。底面は平坦で、壁はSK01に比べて緩やかである。埋土は地山の黄橙色粘質土が混じる茶褐色粘質土である。遺物は出土していない。

（3）柱穴・小穴（ＳＰ）

柱穴・小穴を４ヶ所で検出した。いずれも掘立柱建物の柱穴および柱痕跡である可能性が極めて高いことから、各穴を起点にして推定される建物の柱位置に試掘トレンチを３個所設定したが、検出には至らなかった。

SP01（Fig.5,8　PL.15）

北央区に位置する。柱穴の柱掘方は、長軸を北東－南西に持つ0.6m×0.45mの隅丸長方形で、深さ0.5mを測る。埋土は柱穴の埋土より地山の黄灰色粘質土が多く混じる黒色粘質土である。柱痕跡は、平面形が径0.25mの円形で深さ0.5mを測り、埋土は地山の黄灰色粘質土が混じる黒色粘質土である。遺物は出土していない。

SP02（Fig.5　PL.16）

北西区、SP01の東に位置する径0.3m、深さ0.1mを測る円形の小穴である。埋土は黒色粘質土で、柱痕跡の可能性が高い。試掘調査で検出した小穴である。遺物は出土していない。

SP03（Fig.5　PL.16）

北西区、SP02の西1.7mに位置し、径0.25m、深さ0.15mを測る円形の小穴である。埋土は黒色粘質土で、柱痕跡の可能性が高い。遺物は出土していない。

SP04（Fig.5　PL.16）

北西区、SP03の南西２mに位置し、径0.2m、深さ0.14mを測る円形の小穴である。埋土は黒色粘質土で、柱痕跡の可能性が高い。遺物は出土していない。

SP05（Fig.5　PL.16）

北西区、SP04に北接し、径0.25m、深さ0.07mを測る円形の小穴である。埋土は黒色粘質土で、柱痕跡の可能性が高い。遺物は出土していない。

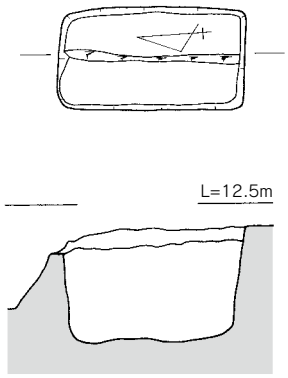


Fig.6　土壙SK01実測図（1/40）

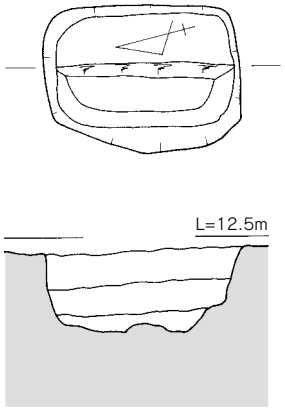


Fig.7　土壙SK02実測図（1/40）

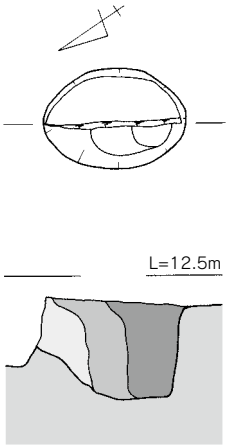


Fig.8　柱穴SP01実測図（1/40）

４．遺 物

遺物は、表土から土師器、施釉陶器、磁器、瓦、黒曜石が出土し、コンテナ１箱の出土である。大半の遺物が当地にあった集落墓に関係するものである。これらのは、総じて小片が多く、器形や年代確定を詳細に示す資料となっていない。遺物からも、昭和40年実施の土地区画工事による遺跡への影響が大であったことを知る。

（１）土師器

器形は不明であるが、胎土や調整技法から古墳時代の所産と推定される破片が１点出土している。

（２）施釉陶器（Fig.9 PL.17）

00002は緑釉陶器碗で、底部の一部を残す。高台は削出しで、透かしを設けている。胎土は１㎜ほどの砂粒を僅かに含み、茶褐色を呈する。釉は濃い緑色で、内面と外面は高台まで施している。
見込みには、白色土による象嵌が見られる。これ以外には、唐津焼碗、鉄釉壺、香炉などの破片が出土している。

（３）磁器（Fig.9 PL.17）

00001は白磁の碗で、口縁部を欠失する。口縁は底部からやや内湾気味に立ち上がる。7㎝の高台径が復元される。高台は削り出しによる。胎土は緻密で、やや濁った乳灰色である。釉は僅かに青みを有する灰白色。施釉は内面と外面の体部下まで。00003は小皿で口縁部を欠く。見込みには焼成時の砂目が残る。底部径3.7㎝を測り、畳付けを削り出している。胎土は、緻密で灰色を呈する。釉は灰色である。これら以外には染付碗等が出土している。

（４）瓦

近世末～近代の丸瓦と平瓦片が出土している。

（５）黒曜石（PL.17）

剥片３点と石核１点が表土から出土している。

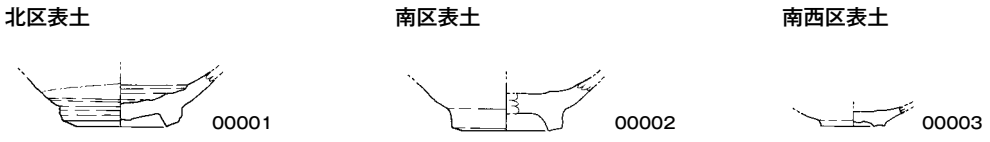


Fig.9 出土遺物実測図（縮尺1：3）

第Ⅳ章　小　結

本次調査では、溝や掘立柱建物の存在を推定させる柱穴などの遺構を検出した。ここでは本調査地に隣接する発掘調査（第12次・31次・39次・57次・95次・141次・158次・146次）成果と合わせて検討を行うものである。

調査地は、その大半が旧地形の丘陵頂部、一部が西方へ下る傾斜地に位置する。先述したように、遺構検出面の地山ローム層は、地表直下数㎝で出現するものの、ローム層においては上部ではなく下部層に位置するものである。このことは、調査地の標高が旧地形図においては13.8m～14.3m、本次調査現況では12.3m～12.5mを測ることから、昭和40年の宅地造成事業時に1.0m～1.5mの地下げにより上部ローム層が欠失したものと判断される。このような状況において、周囲の調査地における遺構最深部の平均標高が12.7m、本次調査における遺構検出面標高が12.3m～12.5mであることを考慮すると、調査地での遺構の残存状況が極めて悪いのは十分に理解できるところである。さらには、昭和41年2月20日～3月11日に第１次調査が実施され、本調査地が位置する公園予定地において試掘溝(No.9)を設定した結果、当地は削平により遺構が消滅したとする見解は大局的には妥当な判断であったことが判明した。

このような遺構残存条件が劣悪の中、北央区で検出した柱穴SP01の残存は、当地において遺構が展開していたことを証明する数少ないもので、価値は高いと言える。では、遺構の性格はどのようなものが考えられるのか。第31次および第158次調査検出遺構との比較や、柱痕跡と柱堀方の状況から判断すると、掘立柱建物もしくは柵列の一部、それも建物東南隅に位置する柱穴であると考えられる。さらに、復元される建物は、側柱筋方向が第12次・39次・111次で検出した建物と同じくすることが想定されることから、複数以上の建物群のひとつで、古墳時代終末を上限、奈良時代前半期を下限とする期間の一部に属するものと判断される。

溝SD01とSD02は、第95次調査で検出した2号溝と一連のものと判断される。2号溝は、幅3.5m～4.5m、深さ約1.6mを測り、壁がV字形に立ち上がる。溝内からは、白磁・青磁・染付・陶器・瓦質土器が出土している。溝SD01とSD02は、2号溝の底部と考えられ、先述した削平規模を加味すれば、２号溝と同等規模の溝になる。2号溝は、報告書で郭を構成する一部と記載され、形状などからも妥当な判断とされる。したがって、同様な性格を有する一連の溝とした場合、画される範囲が広範囲であり、周辺地における類例の出現に注目したい。

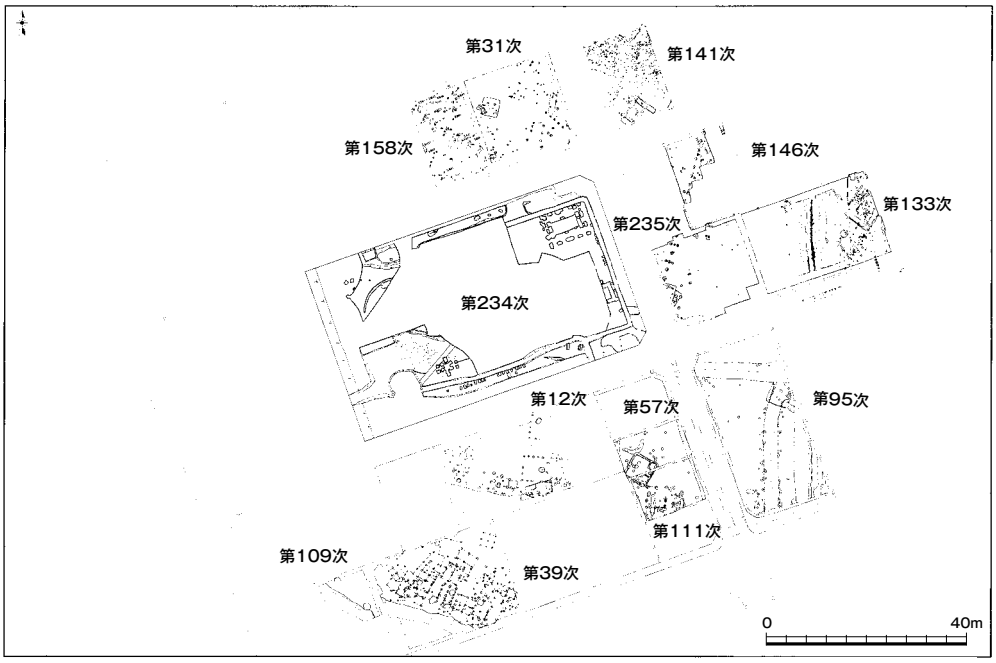


Fig.10 周辺調査遺構図（1/1,500）

第１表　有田遺跡群発掘調査報告書一覧

有田, 小田部集	埋蔵文化財 調査報告書	発行年	掲　載　調　査　次　数
別途	第１集	1967	１次　　書名：『有田古代遺跡発掘調査概報』
別途	第2集	1968	２次　　書名：『有田遺跡ー福岡市有田古代集落遺跡第二次調査報告ー』
別途	第43集	1977	3Ａ次，3Ｂ次　　書名：『有田周辺遺跡調査概報』
1	第58集	1980	17次，21次，22次，23次，24次，25次，26次，27次
2	第81集	1982	７次，８次，28次，29次，31次，33次，34次
3	第84集	1982	59次
別途	第95集	1983	62次　　書名：『有田七田前遺跡ー有住小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告ー』
4	第96集	1983	19次，32次，36次，37次，38次，40次，41次，42次，45次
5	第110集	1984	30次，44次，46次，47次，48次，49次，55次，63次，75次
6	第113集	1985	5次，39次，51次，53次，56次，57次，66次，76次，86次，分布調査資料
別途	第129集	1986	81次　　書名：『有田遺跡群ー第81調査ー』
7	第139集	1986	52次，59次，60次，82次，83次，87次，95次，97次，101次，第59次調査の炭化米
8	第155集	1987	３次，43次，64次，108次，第3次調査の木材
9	第173集	1988	35次，70次，71次，72次，102次，105次，109次，111次，117次，122次，第108次調査追加
10	第212集	1989	100次，103次，130次，134次
11	第234集	1990	107次，113次，120次，131次，133次，146次，149次
12	第264集	1991	119次，121次，126次，127次，128次，129次，157次，162次，144次，156次，第126次調査の人骨
13	第265集	1991	152次
14	第266集	1991	118次，123次，139次，155次，161次
15	第307集	1992	154次，159次，163次，165次
16	第308集	1992	110次，112次，114次，116次，138次，151次，158次，164次
17	第339集	1993	160次，169次
18	第340集	1993	125次，135次，140次，145次，148次
19	第377集	1994	６次，50次，58次，61次，65次，67次
20	第378集	1994	136次，141次，142次，143次
21	第426集	1995	147次，153次，第148次調査遺物補遺
22	第427集	1995	54次，68次，69次，73次
23	第470集	1996	４次，176次
24	第471集	1996	74次，77次，78次
25	第472集	1996	172次
26	第473集	1996	170次，173次
27	第512集	1997	178次
28	第513集	1997	175次，177次，179次
29	第538集	1998	78次，79次
30	第547集	1998	80次
31	第574集	1998	181次，184次
32	第608集	1999	188次
33	第649集	2000	189次
34	第651集	2000	106次　第147次調査出土遺物（追加分）
35	第657集	2000	182次，186次，187次，190次，192次，193次
36	第684集	2001	115次，168次，180次
37	第725集	2002	124次，150次
38	第735集	2003	202次
39	第784集	2004	194次，195次，196次，201次，203次，204次
40	第869集	2006	205次
41	第870集	2006	9次，10次，11次，12次，13次，14次，16次，171次，183次，191次，198次，199次，200次，206次，210次，215次
42	第871集	2006	211次
43	第919集	2007	216次
44	第920集	2007	218次，219次，222次，224次，225次
45	第971集	2008	15次
46	第1024集	2009	226次
47	第1067集	2010	132次，137次，221次，223次，228次，229次，231次，232次
48	第1068集	2010	230次
49	第1134集	2012	234次
50	第1135集	2012	236次，237次，239次

図　　版

PLATES

調査地周辺航空写真（1939年　昭和14年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1947年　昭和22年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1956年　昭和31年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1960年　昭和35年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1964年　昭和39年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1972年　昭和47年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1981年　昭和56年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（1987年　昭和62年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（2001年　平成13年）

【国土地理院所蔵写真】

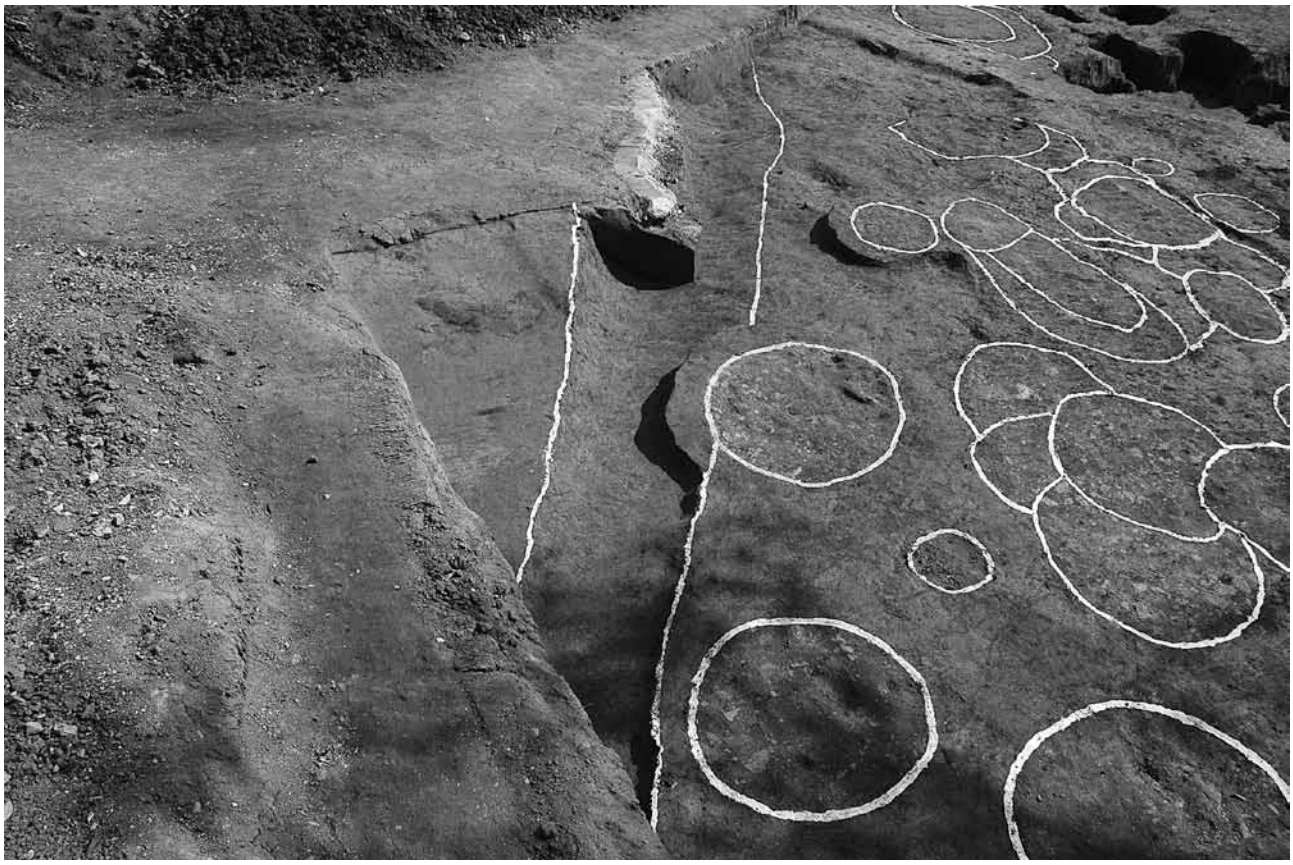
調査地周辺航空写真（2004年　平成16年）

【国土地理院所蔵写真】

調査地周辺航空写真（2007年　平成19年）

【国土地理院所蔵写真】

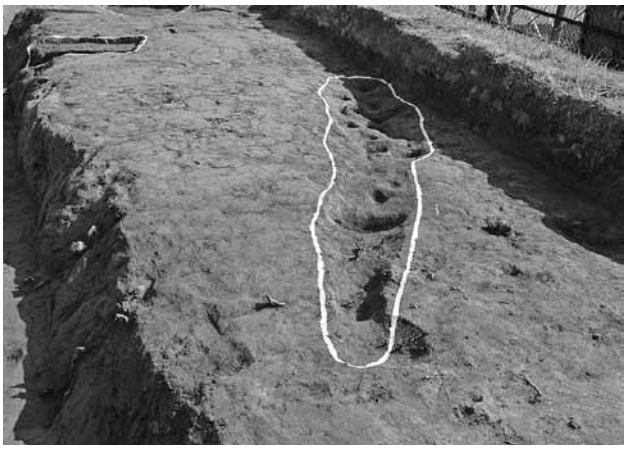
（1）南西区全景（東から）



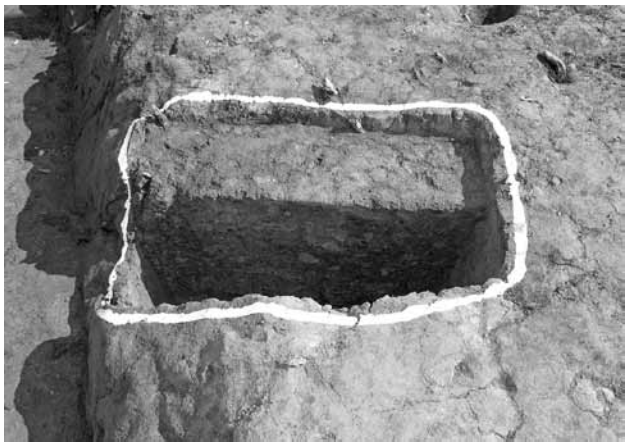
（2）溝SD01（西から）

（1）南央区全景（西から）

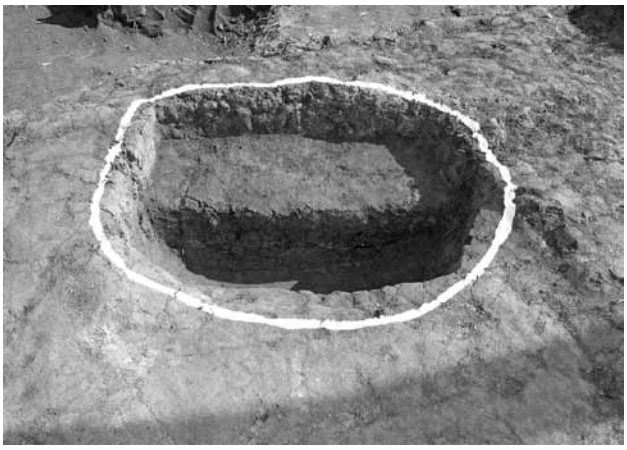
（2）溝SD02、土壙SK01・02（東から）



（3）溝SD02（西から）



（4）土壙SK01（西から）

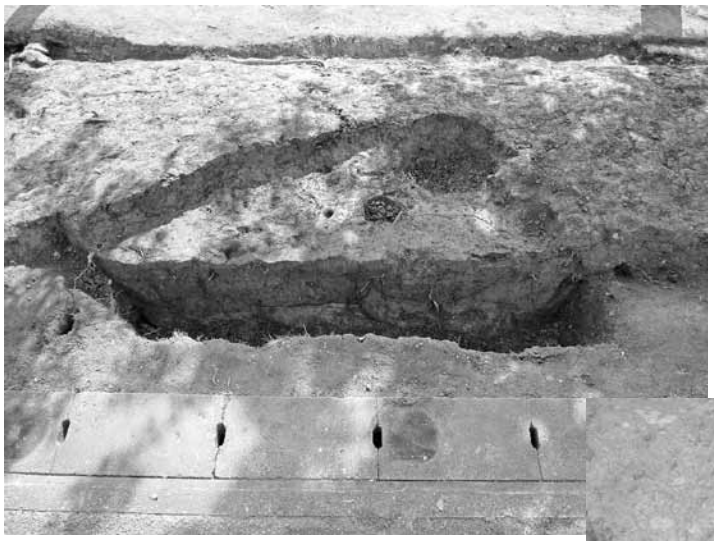


（5）土壙SK02（西から）

（1）東央区、南東区全景（北から）

（2）北東区全景（南から）

（1）北央区全景（東から）

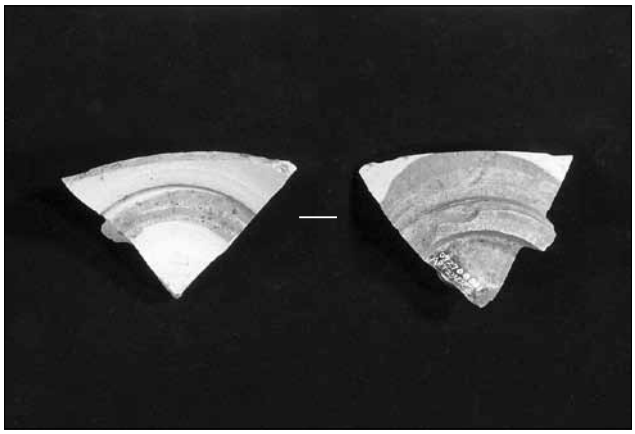


（2）北央区柱穴SP01（北から）

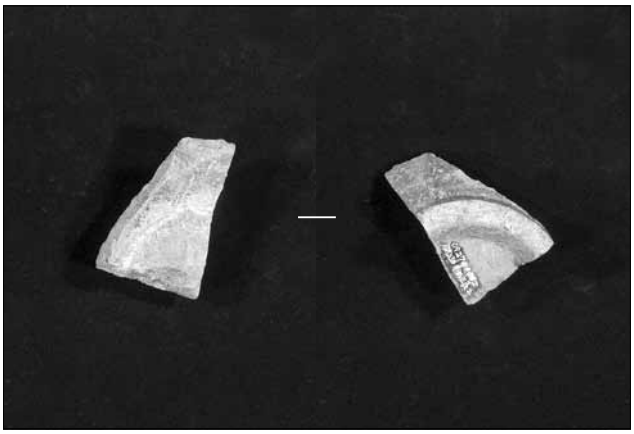
（1）北西区遠景（南東から）

（2）北西区全景（東から）

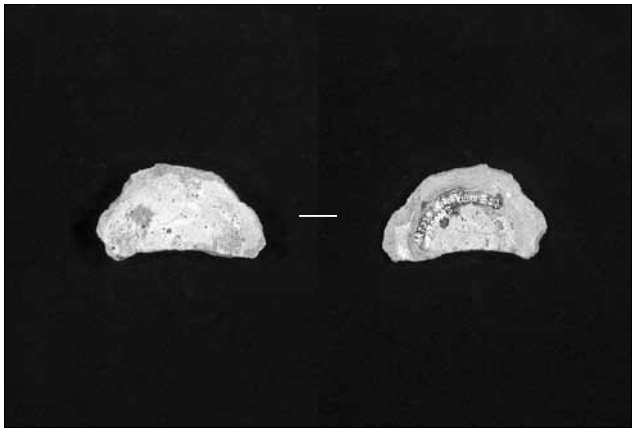
（1）南西区出土墓標



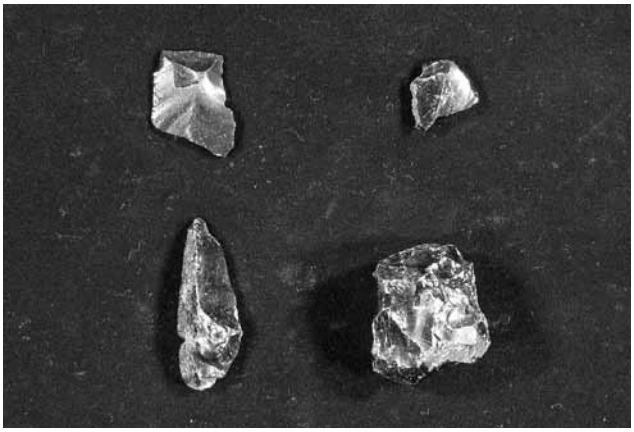
（2）白磁碗（092700001）



（3）施釉陶器碗（092700002）



（4）施釉陶器碗（092700003）



（5）黒曜石剥片

（1）調査終了状況全景（南東から）

（2）公園再整備後風景（北から）

（3）公園内遺跡説明版

（1）公園南東部（公園再整備前）

（2）公園南東部（公園再整備後）

（3）公園北東部（発掘調査前）

（4）公園北東部（公園再整備後）

（5）公園中央部（発掘調査前）

（6）公園中央部（公園再整備後）

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	ありた・こたべ		
書名	有田・小田部49		
副書名	有田遺跡群第234次調査報告書		
巻次	49		
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	1134		
編者名	瀧本正志		
著者名	瀧本正志		
編集機関	福岡市教育委員会　（埋蔵文化財第２課）		
発行機関	福岡市教育委員会		
機関所在地	〒810-8621　福岡県福岡市中央区天神１丁目８番１号　　Tel. 092-711-4667		
発行年月日	2012年3月16日		
遺跡名ふりがな	ありた いせき	北緯（世界測地系）	33° 33′ 48″
遺跡名	有田遺跡群 (第234次調査)	東経（世界測地系）	130° 19′ 58″
所在地ふりがな	ふくおかけんふくおかしさわらくありた	市町村コード	40130
遺跡所在地	福岡県福岡市早良区有田一丁目40	遺跡番号	0309
調査原因	公園再整備	調査期間	2009.10.13～2009.11.18
種別	集落	調査面積	745.5㎡
主な時代	縄文時代～中世	主な遺構	溝・土壙・柱穴
主な遺物	土師器・白磁・施釉陶器・瓦・黒曜石剥片		
特記事項	土地区画整理工事に伴う大規模な削平により、遺跡の当該地は壊滅的なダメージを受けている。		

有田・小田部 49

― 有田遺跡群第234次調査報告書 ―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1134集

編集・発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1-8-1
TEL092(711)4667

発行日　平成24年（2012年）3月16日

印　　刷　協文社印刷株式会社
福岡市西区小戸4-24-5

ARITA SITES 49

THE REPORT OF THE 234TH ARCHAEOLOGICAL EXACAVATIONS
OF THE ARITA SAITES
IN FUKUOKA, JAPAN

March 2012
FUKUOKA CITY BOARD OF EDUCATION